

第五回浦昭二記念賞選考記

情報システム学会

浦昭二記念賞選定委員会委員長 杉野 隆

今年度の浦昭二記念賞は、例年と同じく7月1日に全学会員に表彰案件の推薦を依頼し、9月14日に応募を締め切った。2件の推薦があり、浦昭二記念賞選定委員会で審査の結果、論文賞と実践賞として各1件を表彰することを全会一致で決定した。10月の理事会で承認され、12月5日の第16回全国大会・研究発表大会において両賞受賞者を表彰した。これまでと異なる点もいくつかあったので、表彰内容と変更点について報告する。

1 表彰内容

(1) 論文賞

① 対象論文

エンティティの存在従属分析のためのドメイン特化言語

Domain Specific Language for Existence Dependency Analysis on Business Entities (所収誌：情報システム学会学会誌 Vol. 15, No. 1, pp.1-17)

② 表彰対象者

井田 明男*, 金田 重郎*, 森本 悠介** (同志社大学大学院 理工学研究科)

*：本学会会員，**：本学会非会員

③ 表彰理由

本論文は、記述が容易で、人間、機械ともに可読な、存在従属分析結果の概念モデルを記述することに特化したドメイン固有言語 DSL4EDA を策定し、関係データベース (RDB) をエンティティの永続化手段、Web サービス API 群をそれらへのアクセス手段とした開発への適用を提案する、新奇性、信頼性、有用性を十分に満たした論文である。

(2) 実践賞

① 表彰対象

確かな原理に基づく情報システム開発方法の提供と先導による、個人、組織及び社会への貢献

② 表彰対象者 株式会社 プライド* (代表：北村充晴社長)

*：本学会賛助会員

③ 表彰理由

下請け体質の企業が多い IT 業界にあって、独立系の情報システム開発方法提供企業として、確かな原理に基づき現場を先導 (ファシリテート) してきた。顧客企業の問題を直視し、利害が対立しがちな、利用者、技術者、経営者や国・社会といった関与者の協働を先導 (ファシリテート) しながら問題解決を図っている。

浦昭二の主唱する人間中心の情報システムを三十数年にわたって実践し、今後も持続した成果が見込まれることを確信する。

2 従来との変更点

(1) 論文賞選考における編集委員会との連携

2019年度全国大会では表彰対象がゼロであった。浦記念賞の選考は四回目であったが、初めての事態であり、特に論文賞の表彰が一度もないということは何としても避けようということになった。その対策として、論文賞に関して編集委員会との連携を検討することを理事会で約した。その後、編集委員会大曾根委員長に論文賞候補の選定についてお願いしたところ快諾頂き、同委員会内に小委員会を作って、情報システム学会誌掲載論文の中から1本が選考された。その結果をいただき、今回に論文賞の表彰が実現したという次第である。大曾根委員長ら編集委員会の関係者のご協力に深謝いたします。情報システム学会に投稿された論文が、学会誌に採録されたうえ浦昭二記念賞論文賞として表彰されることが、研究者にとって incentive となり、優良な論文の投稿、学会誌採録、論文賞受賞、さらなる優良な論文の投稿という好循環を確立することができれば、選考委員会としても非常に喜ばしいことである。

(2) 大会のオンライン開催

ご承知の通り、今回の全国大会・研究発表大会はオンライン開催となり、浦記念賞表彰式も同様であったので、従来表彰式で行われていた記念写真撮影、表彰状、楯、賞金の授与ができず、表彰状、楯、賞金は事務局から後日配送ということになった。

またオンライン開催中のトラブル発生に備えて、事前に各受賞者から一言挨拶をいただいていた。今回は論文賞の受賞者3名が諸般の事情で欠席されたが、この一言挨拶を代読することによって、大会出席者に受賞者たちを紹介することもでき、ほっと一安心といったところであった。